



ニュースレター

News Letter GUNMA INSECT WORLD



2026 No.45



韓国の昆虫館を訪問しました



2026年1月に全国科学博物館協議会の海外科学系博物館視察研修に参加し、韓国にある5つの博物館や科学館などを訪問しました。その研修の中で、自主研修として驪州(ヨジュ)昆虫館を訪問・見学しました。また、公式訪問した国立果川(クァチョン)科学館に昆虫館があり、そちらも見学しましたので併せてご紹介します。

ヨジュ昆虫館への訪問

ヨジュ昆虫館へ訪問することになったきっかけは、2025年12月にヨジュ昆虫館が主催する日本の昆虫施設等を見学する家族向けツアーの一環でぐんま昆虫の森に来園され、その際に私が案内したことからはじまります。引率者であるヨジュ昆虫館の若き館長のユウさんは、日本語を話すことができ通訳をしていました。その時に「来月、韓国に行きます。」と話したところ、「是非、ヨジュ昆虫館にいらしてください。」とお誘いを受けました。そこで自主研修日の際にヨジュ昆虫館を訪問することを決めました。

ヨジュに行くにはソウルから直行バスもあるそうですが、泊まっていたホテルのある麻浦(マポ)から地下鉄や電車を乗り継いで2時間弱かけて向かいました。私は韓国語も話せず、ハングルも読めません。小さく書いてあるローマ字や漢字などを頼りに必死に乗換駅を探しながら、なんとかヨジュ駅まで辿り着きました。ヨジュ駅にはユウさんが迎えに来てくれて、一緒にヨジュ地方の伝統的な韓国料理の昼食をいただき、昆虫館に向かいました。

ヨジュ昆虫館の様子

ヨジュ昆虫館は私設の昆虫館で、現館長であるユウさんの父親が、昆虫好きであったユウさんのために設立し



ヨジュ昆虫館の建物と入り口

たということでした。昆虫館は2階建ての施設で、日本の中規模昆虫館くらいのサイズがあります。1階は主に標本やパネルの展示室で、世界の昆虫などについて紹介していました。

2階に上がると小さなライトを貸し出していました。暗い室内をライトで照らして歩きながら、昆虫の標本などが付けてある樹木や洞窟などを探して回る探検気分を味わえる展示室があります。子供だけでなく大人も楽しみながら昆虫標本などを探している様子が見られました。



標本展示と生体展示の様子

次いで生体展示のスペースです。韓国に生息する昆虫類の他、外国産のヤスデやサソリなどの節足動物、ヘビやカメなどの爬虫類も展示していました。特にカブトムシやノコギリクワガタなどを触ることができるスペースは人気があり、たくさんの来館者で賑わっていました。また、ユウさんをはじめとするスタッフやボランティアの解説者の方が展示や昆虫の触り方などを説明しており、子供から大人まで熱心に聞いていました。(➡次ページへ)



昆虫のふれあい展示

解説するユウさん

ヨジュ昆虫館は教育普及や体験活動に力を入れており、飼育室のようなバックヤードは見当たりませんでした。ユウさんの話によると、別の場所に飼育室があり、生体展示やふれあい体験として利用しているカブトムシやクワガタムシは主に購入してるとのことでした。

尚、韓国では外国産の昆虫の輸入が日本より厳しく、外国産カブトムシやクワガタムシも輸入できないそうです。そのため生きた外国産のカブトムシやクワガタムシが見られる日本はとてもうらやましいと話していました。

国立果川(クァチョン)科学館 昆虫館

国立果川科学館はソウル郊外の果川市にあります。広い敷地の中に科学や先端技術、宇宙工学などに関する体験展示の常設展示館や特別展示館、プラネタリウムなどがあります。昆虫館も敷地の一角にありました。

昆虫館は2階建ての建物で、1階部分が展示スペースとなっていました。



国立果川科学館 昆虫館

標本やパネル展示では解説がハングルなので読むことはできませんでしたが、昆虫に関する基本的な解説パネルや世界の昆虫標本などが展示されていました。生体展示の昆虫は韓国に生息する昆虫で、タガメやミズカマキリ、ゲンゴロウなど日本と同じ種と思われる水生昆虫をはじめ、トノサマバッタやハラビロカマキリ、ゴキブリなどが展示されていました。セイヨウオオマルハナバチとみられるコロニーの生体展示ではハ



生体展示の様子



チョウのガラス室と標本展示

チが自由に野外と行き来して花粉などを集めてくることができるようになっていました。また、こちらの昆虫館でも外国産と思われる両性類・爬虫類が展示されていました。展示室の中央には6畳くらいの広さのガラス室があり、中にはアゲハチョウ(ナミアゲハ)やモンシロチョウのサナギが置いてあり、羽化した成虫がガラス室内を飛んでいました。

展示室以外にも標本作り教室や工作体験などを行うワークショップルームがありました。あまり広い部屋ではなく、10人程度が入ればいっぱいになってしまいそうなサイズでした。



ワークショップルームと飼育室

さらにこちらの昆虫館には飼育室がありました。昆虫館スタッフのリーさんに頼んで飼育室も見せていただきました。広さは先ほどのワークショップルームと同程度でありあまり広くはありません。この飼育室で生体展示している昆虫やエサとなるコオロギなどを飼育しており、狭いながら日本の昆虫館の飼育室と似た雰囲気でした。リーさんによると2階の部屋を片付けて数年のうちにチョウの累代飼育を始めたとのことでした。

訪問時間が短く韓国語もわからないため、十分に理解ができた訳ではありませんが、韓国の昆虫館の様子が少しわかりました。今後も韓国をはじめ海外の昆虫館を訪問し、飼育技術や資料の貸借、教育普及プログラムの検討などで交流ができればと思いました。

(昆虫企画係 金杉隆雄)

クロカタゾウムシ

Pachyrhynchus infernalis
(コウチュウ目 ゾウムシ科)



ガラスも歩くことができる

クロカタゾウムシは石垣島や西表島に生息しているゾウムシです。その名の通り全身黒色で体がとても硬いのが特徴なのですが、その代償に翅を開くことができません、飛ぶことができません。ただ、その硬さは昆虫の中で世界一といわれるほどで、鳥に食べられても未消化のまま生きて出てきたという噂があるほどです。さらに、脚の裏に細かい毛がたくさんあるおかげでツルツルな場所も平気で歩くことができます。そのため、飼育する際には脱走しないように注意が必要です。

昆虫の森ではエサにサンゴジュという植物を与えています。葉だけでなく樹皮まで食べることができるので、ナナフシが葉を食べた後の枝を与えることもあります。また、ニンジンやリンゴも食べることができるので、エサは簡単に用意することができます。さらに、共食いやケンカをすることはないので、脱走さえ防げるものなら様々なケースで飼育することができます。南西諸島に生息する昆虫なので寒さは苦手ですが、総じて飼いやすい昆虫と言えるでしょう。



サンゴジュを食べる本種

最後にクロカタゾウムシの繁殖方法についてご紹介

紹介します。昆虫の森ではクヌギのドングリを用いて繁殖をおこなっています。底に土を敷いたケースに、少し傷をつけたクヌギのドングリを並べて産卵用ケースを作ります。クロカタゾウムシは産卵用ケースのドングリに産卵し、孵

化した幼虫はドングリを食べて成長します。そうして大きくなった幼虫はドングリから出てきて土に潜り、蛹になります。その後羽化した成虫が土から出てくるのです。この他に、壁面やエサの周辺に産卵することがあるので、そういった卵は穴をあけたドングリに入れることで同じように羽化してくれます。ドングリがない場合はサツマイモを用いても繁殖できるといわれています。

丸い体でぺたぺたと歩く姿はとても愛嬌があります。昆虫の森にご来園いただいた際にはクロカタゾウムシに注目してみてください。

(昆虫企画係 澄川智紀)



クロカタゾウムシの幼虫(中央)と卵

昆虫採集のすすめ ～灯火採集編～



今回は灯火採集という採集方法をご紹介します。灯火採集とは、別名ライトトラップとも呼ばれ、昆虫が光に集まる習性を利用したものです。水銀灯やブラックライトを点灯させて、そのそばで大きな白布を立てて設置します。そして光につられて白布やその周辺にやってきた昆虫を採集するという方法です。

この方法は様々な昆虫と出会うことができるのが大きな魅力の一つです。採集場所や時期によってやってくる昆虫が変わります。多くの場合、最もたくさん集まるのはガの仲間です。種によって多彩な翅を観察できますし、大型のヤママユの仲間やスズメガの仲間はとても迫力があります。また、カブト・クワガタは勿論、カミキリムシやゾウムシ、ジョウカイやシデムシなど数多くのコウチュウ類にも出会うことができます。さらに、場所や時期によってはヘビトンボやトビケラなどの昆虫も見ることができるかもしれません。

灯火採集は一度に多くの昆虫を観察できる楽しい採集方法です。機会があれば是非やってみてくださいね。

(昆虫企画係 澄川智紀)



灯火採集で見られる昆虫 (左からミヤマクワガタ、エゾシモフリスズメ、ヘビトンボ)

入園料

■一般…410円 ■高校生・大学生…200円 ■中学生以下…無料
※団体割引・年間パスポートあり。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料。

開園時間・入園時間

■4月～10月……9時30分～16時30分(入園は16時まで)
■11月～翌3月…9時30分～16時(入園は15時30分まで)

休園日

■月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、年末年始 12/27～1/9
展示入替のため休園することがあります。公式HPでご確認ください。

※昆虫など動植物の持ち帰りはできません。
※虫かごの持ち込みはできませんが、虫あみの持ち込みはできます。
※ゴミはお持ち帰りください。
※ペットを連れての入園はご遠慮ください。



ぐんま 昆虫の森
GUNMA INSECT WORLD

〒376-0132
群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
TEL.0277-74-6441
FAX.0277-74-6466

